

2016 前期 LS (地)

受験番号

2016 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験 憲法・民法・刑法

(180分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は4ページである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は、憲法、民法、刑法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 答案は、横書きとする。
5. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
6. 答案は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
7. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
8. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
9. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 憲法

【第1問】

以下の〔事例〕を読んで、〔設問1〕〔設問2〕に答えなさい。

〔事例〕

無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律（以下、「団体規制法」という）は、過去に無差別大量殺人行為を行った団体が、再び同行為に及ぶ危険性があると認められる場合には、「観察処分」等を下すことができると定めている（5条1項）。観察処分を受けた団体は、構成員の氏名・住所や、団体の資産、その他団体の活動に関する事項等について「報告義務」を課され（同2項・3項）、また、団体の活動状況を明らかにするために特に必要があると認められるときは、公安調査官を団体の施設内に立ち入らせ、設備、帳簿書類その他必要な物件を検査させるといった「立入検査受忍義務」を課される（7条1項・2項）。なお、この立入検査の権限は、犯罪捜査のためには行使し得ない。

Xは、団体規制法に基づき観察処分を受けたため、その取消しを求めて提訴した。Xはこの取消訴訟において、団体規制法の違憲を主張しようと考えている。

〔設問1〕 あなたがXの訴訟代理人であるとするならば、本件において、どのような憲法上の主張をするか。

〔設問2〕 〔設問1〕で行った憲法上の主張に対して想定される国側の反論のポイントを簡潔に述べたうえで、その理由を論じなさい。

【参考資料】 団体規制法

第1条 この法律は、団体の活動として役職員……又は構成員が……無差別大量殺人行為を行った団体につき、その活動状況を明らかにし又は当該行為の再発を防止するために必要な規制措置を定め、もって国民の生活の平穏を含む公共の安全の確保に寄与することを目的とする。

【第2問】

議会制民主主義における政党の憲法上の位置づけ及び政党の役割について、判例に即して、説明しなさい。

専門論文試験 民法

【問題】

以下の〔事例〕を読んで、〔設問1〕〔設問2〕に答えなさい。

〔事例〕

商社AとメーカーBとの間で、平成26年12月25日、鋼材10トンと5000万円で売買する契約を締結し、平成27年1月末日に、AがBの指定する倉庫に鋼材を運び込むこと、そこでBがAに対し代金5000万円を支払うことの約束をした。ところが、Bは、同月末日が過ぎても売買代金の支払もしなかった。

〔設問1〕

Aとしては、売買代金を回収するためには、Bに対し、どのような請求をすることができるか。また、その場合、Bは、反論としてどのような主張ができるか。

〔設問2〕

Aは、Bが売買代金の履行期である平成27年1月末日を過ぎても売買代金5000万円の支払をしないので、Bに対し、同年2月15日到達の書面で、1週間以内に売買代金5000万円を支払うように催告し、上記期限が経過したときは売買契約を解除する旨の意思表示をした。

- (1) Aは、どのような法的根拠に基づき解除できるのか。
- (2) 上記の解除権発生の要件を挙げよ。
- (3) 上記解除権発生の要件のうち、Aが主張すべき要件はどれか。また、Bが主張すべき要件はどれか。A、Bは、その要件に該当する事実としてどのような事実を主張することになるかを述べよ。

専門論文試験 刑法

【問題】

以下の〔事例〕に基づき、甲、乙及び丙の罪責について、具体的な事実を摘示ながら論じなさい(特別法違反の点を除く。)

〔事例〕

- (1) 金に困っていた甲(男性、28歳)は、アルバイト先のスナックの客で、羽振りのよさそうなA(男性、61歳)が「毎年8月は別荘に行く。」と話しているのを聞いて、留守中のA宅に侵入して金を奪おうと考えた。そこで、某年7月28日、高校時代の不良仲間であり、やはり金に困っていた乙及び丙を呼び寄せ、「金持ちの爺さんちから金を奪ってこないか。分け前は3分の1ずつだ。」と申し向けたところ、乙・丙が賛同したため、AやA宅についての情報を伝えるとともに、ガラス切りなどの侵入用具を乙に渡したうえで、犯行の日時や手順など、具体的な犯行計画を立てた。
- (2) 同年8月4日午前2時頃、甲・乙及び丙ら3名は、丙の運転する車でA宅に到着した。A宅近くにはコンビニエンスストアがあり、深夜でも人通りがあったため、丙は、A宅前で見張りをした。乙は、庭に回り、ガラス切りを用いて窓ガラスを切り、鍵を開け、A宅に侵入した。しかし、甲は、乙が庭に回ろうとしたとたん、「こんな立派な家では、防犯カメラか何か、警備システムを入れているに違いない。おれはAの顔見知りだし、捕まってはたまらない。」と思って怖じ気づき、こっそりその場から立ち去った。
- (3) A宅に侵入した乙は、Aの書斎に入り、机の引き出しを開けたところ、現金20万円入りの封筒があったので、ポケットに入れた。Aは、夏風邪をひいたため、一人だけ別荘に行くのをとりやめて自宅に残り、2階にある自室で寝ていたが、階下で物音がするの目覚め、家を見回ったところ、同日午前2時30分頃、書斎にいる乙を発見した。Aは、乙に向かって、「だれだ、何をしている、警察を呼ぶぞ。」と大声を張り上げた。乙は、一瞬驚いたが、さらに金品が欲しかったため、また、自身の方がAよりもはるかに体格が勝っていたことから、Aの首のあたりを両手で締め上げながら同人を壁に押し付け、「金目のものを出せ。騒いだら殺すぞ。」と強い調子で申し向けた。Aが、震えながら、乙の背後にある書棚の引き出しを指さすと、乙は、Aから手を放して書棚の引き出しを開け、物色を始めた。その隙に、Aは、書斎から飛び出し、大声をあげながら外へ逃げ出そうとした。
- (4) この間、丙は、A宅付近で見張りをしながらA宅内の様子をうかがっていたが、中から人の声が聞こえてきたので不審に思っA宅に侵入したところ、大声を上げながら裏口の方へと走ってくるAとぶつかった。Aを追いかけてきた乙が、丙を見て、「そいつを殴り付けろ。」と怒鳴ったため、丙は、万が一に備えて自宅からこっそり持参していた小刀(刃渡り約15センチメートル)で、逃げようとするAの背後から首のあたりを力いっぱい

い突き刺したところ、Aは多量に出血し、その場に倒れこんた。これを見た乙が、驚いて、「なんてことするんだ。殴り付けろと言っただけじゃないか。なんで殺すんだよ。」と言って丙を詰ると、丙が、「顔を見られたんだから、殺すしかないだろ。それより早く逃げよう。」と答えたので、乙は丙とともにA宅を出て、丙の運転する車で逃走した。なお、倒れたAは、その約15分後に失血死した。

以上